

5 本時（4時間目）の学習指導

- (1) 目標 ・どちらがいくつ多いかという問題がひき算になることを既習事項とつないで考え、解くことができる。
 ・自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりすることによって、自分と友達の考えの似ているところやよさに気付くことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 課 課題解決能力 見見通し 共 共感性
1 本時の学習課題をつかむ。	つかむ	<p>この前は、残りはいくつか考える問題だったよ。今日の問題は、赤玉7個と白玉13個でどちらがいくつ多いか考えるんだな。</p>	<p>課 分かっていることに赤、問われていることに青で線を引き、課題をつかみやすくする。</p>
2 自分のやり方で解く。	つくる	<p>どちらがいくつ多いか考える問題を解こう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>数図ブロック・ 図で 白 // // // // (1列で赤の数だけ消す。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>数図ブロック・ 図で 赤 白 (2列で考える。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>式で $13 - 7 = 6$ $7 - 13 = 6$ $7 + 6 = 13$</p> </div> </div>	<p>見 算数コーナーの1学期の既習事項「ちがいはいくつ」の掲示を振り返らせることにより、ひき算でできそうだという見通しをもたせる。</p>
3 全体で話し合う。	確かめる	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>1列だと白玉の中に赤玉があることになるよ。いいのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>2列で とをつないでみると残った数が答えだよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>多い方から少ない方をひくと分かるよ。13 - 7が正しいね。</p> </div> </div>	<p>課 運動会の玉入れの数を数える時のことを想起させて、数図ブロックや 図は、2列にして1対1対応で解くといいことに気付いた児童の考えを取り上げ、全体に広める。</p>
4 類似問題を解く。	確認	<p>残りはいくつを考える時とは違って、どちらが多いかを考える時は数図ブロックや 図を2列に並べるといいんだな。同じ数のところをのけるので、式は多い方から少ない方をひくといいんだな。 どちらがいくつ多いという問題はひき算でできることが分かったよ。答えを書くときは、「 の方が が多い」と書かなければいけないよ。</p>	<p>共 式と 図をつなぐ話し合いの中で、自分の考えと友達の考えの似ているところに気付くような助言をする。 ・7 - 13の式を取り上げることにより、多い方から少ない方を引くというひき算の意味の理解を深める。</p>
5 ひきざんマンに手紙を書き、本時を振り返る。	ふりかえる	<p>今日習ったことを使って、問題を解こう。分かったことを、ひきざんマンに教えてあげよう。</p>	<p>評 どちらがいくつ多いという問題はひき算でできるということに気づき、繰り下がりのあるひき算の式や答えをノートに書くことができたか。 ・たし算やひき算の文章題の中から、求差の問題を見つけて解くことができるようにする。 ・分かったことや友達の考えについて気付いたことを、ひきざんマンへの手紙に書く活動を通してまとめとする。</p>

